

「ライフステージに応じた住まい」のプログラム

- ・ 高等学校の家庭科で行う住生活に関する授業について、建築士を外部講師として導入した場合の授業実施例
- ・ 使用ワークシート：「青森県住まい・住まい方読本」23頁

	担当	項目	内容	時間	留意点
導入	教員	前時の振り返り	■前時の授業について教員から説明	2分	■新築、リフォーム、中古住宅購入、シェアハウス等の多様な住まい方があることを前時までの学習で知らせておく。
		本時の目的	■本時の授業の目的について教員から説明 生活の変化によって、個人個人の住要求が異なってくることを理解し、必要な住まいをどのような基準で選ぶか、考える。		
展開	教員	ゲストティーチャー(以下、GT)の紹介	■教員がGTを紹介 GTの役割を説明する。(例: 本日は、多様な住要求を具現化する仕事を通じて、ライフステージに応じた住まいの計画の仕方について講演をいただく。) ■自己紹介も兼ねてGTが挨拶 GTは職業に就いたきっかけや職業の魅力などを交えて自己紹介をする。	5分	■きっかけや魅力も話してもらくと、職業観育成のきっかけとなる。 ■GTは平易な表現(専門用語を避ける)を用いて話す事が望ましい。
	GT	講演① 多様な住まい方や住み替えによる経費について事例を通して講演	■多様な住まい方について 個人個人の住要求に応じて、多様な住まい方を選択できるよう「新築、住み替え(中古戸建住宅)、住み替え(集合住宅)、リフォーム、コレクティブハウス/シェアハウス」の事例と、経費に関する事項も交えて講演いただく。	15分	■手掛けた住宅を取り上げ住み手の想いやそれを実現した工夫を交えることで理解が深まる。
	教員	住要求に応じて必要な住まいを選ぶ。	■ワークシートを利用し、必要な住まいを選ぶ。 ■全体で共有する。 「新築、住み替え(中古戸建住宅)、住み替え(集合住宅)、リフォーム、コレクティブハウス/シェアハウス」のうち、何を選んだか、挙手させる。	3分	
	GT	講演② 本県の空き家問題について事例を通して講演	■空き家問題とその背景について	10分	
	教員	住要求に応じて必要な住まいを考え、選ぶ。	■ワークシートを利用し、必要な住まいと、その理由について考える。 ■全体で共有する。意見を発表する。	7分	
まとめ		まとめ ふりかえり	■質疑応答 数人の生徒から講師へ質問。	3分	
			■GTから全体講評をもらう。 GTより発表内容から良かった点や不足していた視点等を助言してもらう。	5分	